

2025年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
台湾と日本における環境問題への取り組みの比較	Aコース

学生情報	
氏名	榑原 壮太
所属学部・研究科	工学部応用化学コース
学年(出発時)	4年

渡航先情報	
渡航先	台湾
渡航先滞在期間	2025年9月16日 ~ 2025年9月26日
訪問先機関等	国立宜蘭大学、国立成功大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容
<p>私の台湾渡航の最大の目的は環境問題の取り組み方を実際に現地調査することで、日本とどう違うか比較することでした。今回、私は台湾のリサイクル状況に関心を持ち、現地の方々の声を聞くためにアンケート用のQR codeを作成することで気軽に回答できるようなシステムを事前に作成しました。このアンケートの結果から、多くの台湾人はリサイクルに意識を配っていることが分かりました。彼らは環境問題に日頃から興味を持っており、買い物の際にはビニール袋をもらうのではなく、エコバッグを使用していることが分かりました。さらに、台湾では多くの人が水筒を持参していることが分かりました。大学や公共交通機関など、多くの場所でウォーターサーバーが置いてあり、これによって、ペットボトルの廃棄量が日本より少なく抑えられていると考えられると思いました。このような取り組みが積み重なることで環境保全に繋がって行くのだろうと思い、資源節約をしやすい環境を整えることの重要性を学びました。</p> <p>二つ目の目的は現地の大学の研究を学び、自分の研究や将来に活かせるような経験を得ることでした。今回、二つの大学に訪問させていただき、研究内容や自分の知らない実験装置の役割・使用方法を教えてくださいました。最初に訪問させていただいた国立宜蘭大学では、有機物の燃焼効率、植物由来の燃料作製に関する実験を教えてくださいました。次に訪問させていただいた国立成功大学では、液晶の光学活性に関する実験を教えてくださいました。これらの実験は私にとって貴重な経験となりました。</p>

渡航により達成できたこと
<p>まず、台湾のリサイクル状況が日本と比べてどう違うのか調査できました。台湾で特に印象に残ったことは、ウォーターサーバーが多くの場所で設置されていたことです。これは日本にはない特徴であり、これにより、ペットボトルの使用量を抑えることができていると思いました。実際に現地の学生と交流した際に、ほとんどの学生が水筒を持参しており、学内のウォーターサーバーを使用していました。加えて、空港や鉄道などの公共交通機関のごみ箱は宜蘭、台北、台南の何れも分別用のごみ箱が設置されており、日頃からリサイクルに気を配っていることが分かりました。</p> <p>次に、現地の学生に環境意識についてアンケート調査を行い、台湾人のリサイクル意識が高いことも確認できました。アンケートの結果では、回答者の多くが日頃から環境に気を配っており、買い物の際にはマイバッグを使用していることが分かりました。これらの調査結果はインターネット上の情報だけでは得られないものであり、現地に赴き実際に観察・交流することで初めて理解できるものでした。自分にとって満足のいく結果を得ることができたと感じています。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

特に印象に残ったことは異国間の価値観・文化の違いです。現地の学生は初めて会う日本人の私を大歓迎くださり、研究を丁寧に教えてくれました。そして、私が台湾の文化に興味があると伝えると、遠くにある文化的な施設に快く連れて行ってくださりました。彼らと交流している間に新しい価値観や生活観について学び日本にただでは気付けないことがたくさんあり、学生の方々には大変感謝しています。

次に、感謝の気持ちを伝えることは日本でも台湾でも関係なく重要であると感じました。台湾では分からないことを施設の方や通りがかった人に聞くことができました。助けてもらったときに感謝の気持ちを伝えると相手も明るく反応を返してくださり、不安な気持ちがあった私はとても安心しました。このような経験から感謝の気持ちを伝えることの重要性を再認識しました。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回の経験から英語学習を続けていきたい気持ちが一層増しました。現地の人々と交流をしていく中で英語がうまく伝わらないことがあり、悔しい思いをしました。今後も論文作成や学会で、英語は必要不可欠であるので自分の研究と共に英語学習も習慣化して継続していきたいです。

次に、研究に関しては今までよりさらに環境低負荷素材を用いていきたいと思いました。国立宜蘭大学の研究では果物を加工することで燃料などの資源を作製していました。この研究から私も環境について見直す機会ができました。自分の研究テーマに関して、環境低負荷で、性能の高い素材を見つけることは簡単なことではありませんが、これから理想的な素材を開発できるように研究を究めていきたいです。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

海外に行くことが心配な人ほど挑戦する価値があると思います。私自身も最初は不安な気持ちがありましたが、台湾で得られた経験は他に代えがたいことだと思いました。事前準備をしっかり行えば不安な気持ちも解消されると思います。そして、訪問先機関の方々に助けてもらうことも多いと思います。この時に感謝の気持ちを伝えることが大事だと思いました。

また、英語で話すときは自信をもって話すことが大事だと思いました。私自身英語を話すことに自信がなかったのですが、文法が間違っても恐れずに話すことで、自分の意見を相手に伝えることができました。これは大きな成功体験でした。日本語を用いずに人とコミュニケーションを取る機会は多くないので、この事業に採用された場合は、現地の人と積極的に会話をするのが大事だと思います。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	67,650円
海外旅行保険	6,343円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	
宿泊費	79,317円
光熱費	
食費	14,339円
その他	29,608円
合計	197,257円